Oasis オアシス

vol. 64

区民と創る港区の男女平等参画のための情報誌

◎特集

本から学ぶ ジェンダー平等

港区立男女平等参画センター
リーブラ

特 集
本から学ぶジェンダー平等

1

時代を切り拓く港区の女性たち

歴史的発展をとげながら、人々が多く集い、行きかう港区は、鉄道や建造物、街並みなど、これまで数多くの文学・映画・コミックなどの作品に描かれてきました。

たとえば、夏目漱石の『三四郎』(1909年)の主人公は、九州から上京し、新橋駅に降りたちます。新橋駅は、東海道線開通により明治から大正にかけて約半世紀ほど東京の表玄関でした。

また、近代初頭、女性参政権運動に精力的に取り組む女性を描いた、広津柳浪の『女子参政蜃中楼』(1889年)では、主人公の山村敏子が大阪の政治集会に参加するため、品川駅より汽車に乗るところから物語は始まります。港区は、愛と正義のために戦う女子中学生たちの友情を描いて1990年代に人気を博した少女コミック『美少女戦士セーラー・ムーン』(武内直子著)の舞台としても知られています。

しかし、港区の女性たちの活躍は、物語の中にとどまるわけではありません。

かつて、平塚らいてうが、女性の自我の解放を目的として創刊した文芸雑誌『青鞜』(1911～1916年)には、岡本かの子をはじめとして、港区の女性たちも複数参加していました。

今号では、まず、さまざまな困難に立ち向かいながら、それを乗り越え、パイオニアとして時代を切り拓いてきた港区の女性たちの自伝や聞き書きを通じて、ジェンダー平等について学んでいきます。

『均等法をつくる』

赤松 良子 著
[勁草書房 2003年]

元文部大臣、元ウルグアイ特命全権大使で、現在、公益財団法人日本ユニセフ協会の会長を務める赤松良子さんは、女性の政治進出を支援する団体「クオータ制を推進する会」の代表です。

赤松さんは、労働省婦人少年局の局長時代、男女雇用機会均等法の作成の指揮をとったことでも広く知られています。

この本の中で、1985年に制定された、均等法の作成過程で、どのような議論や対立があったのか、膠着した事態を打開するために、どのような策が練られたのか、当事者たちの実名も含めて、緊迫したその戦いの詳細が明らかにされており、近代日本のジェンダー平等の歴史の中で非常に重要な記録となっています。

赤松さんを励ましてくれるフレーズ、それは「男女平等実現のための長い列に加わる」という言葉であるそうです。苦難の多い時代、迫害や中傷に屈せず闘ってこられた先輩たちのことを思い、ご自身も志を高くもち、困難に立ち向かい、現在90歳で、今なお男女平等実現のための活動を精力的に展開されています。ジェンダー平等のバトンを引き継ぐ次世代にとって、この本は必読書です。

『LOVE THE LIGHT, LOVE THE LIFE 時空を超える光を創る』

石井 幹子　著
［東京新聞　2011年］

石井幹子さんは、東京タワーや、レインボーブリッジのライトアップをはじめとして、ベルリンのブランデンブルク門、パリのセーヌ川の光のイベントなど、照明デザインの分野で、世界各地で活躍されている照明デザイナーの第一人者です。国内外で数々の賞を受賞されており、2000年に紫綬褒章を受章、2019年10月には、文化功労者に選出されました。

著書の中で、地元である六本木商店街からの依頼をうけ、「第2の故郷六本木を美しい街並みに」するためにライトアップのデザインをされたことが紹介されていますが、その他にも芝浦・港南地区の運河沿いの橋のライトアップも手掛けられるなど、港区内の仕事も多くされています。

高校生の時に工業デザイナーになることを志し、東京芸術大学に入学。当時、女子学生は6人だけで、教授たちからは「君たちが入ったおかげで、伝統ある東京美術学校（東京芸大の前身）の校風が損なわれた。どうせ嫁に行ってしまうのだから、教育したって無駄である」と教育現場での性差別を経験。

大学卒業後、1965年から2年間フィンランドで照明器具のデザインを、ドイツでは建築照明を働きながら学び、帰国後、その街らしい景観をつくるためにライトアップするという、今まで日本には存在しなかった仕事に取り組みます。

しかし、当初、なかなか理解を得られず、8年にわたるライトアップ・キャラバンを経て、ついに仕事の依頼がくるという長い道のりがあったこと、また1970年代、働く母として子育てに苦労したことなど、さまざまな困難に直面しつつ、それを乗り越えてきたことが語られています。

若い女性たちには、積極的に海外で仕事をすることをすすめ、励まし、具体的な助言をおこなうなど、女性たちに光と希望を与えてくれる一冊です。

『東京タワー、伝統と先端の街　聞き書きみなと女性史』

みなと女性史をつくる会編著
［財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団・港区立男女平等参画センター
発行　2008年］

この本は、2005年から2006年までに開催されたリーブラ主催講座「みなと女性史をつくるために」の講座終了後、2008年に発足した「みなと女性史をつくる会」により、港区在住の18名の女性のライフヒストリーが編まれたものです。

インタビューの対象者の方々の出生年は1907（明治40）年～1932（昭和7年）で、料亭や花屋、魚屋などの自営業、勤め人、医師・大学教授・看護師・脚本家などの専門職に就いている女性たち、そして区議会議員など、いずれも社会的な活動をされてきた女性たちが、それぞれの生い立ちや、結婚、家族、仕事について語っています。

女性が男性と同じように仕事をもつことが一般的ではなかった時代に、家事・育児に加え、働き手としても忙しい生活を送っていた港区の女性たちの現実の生活を知る、貴重な地域女性史です。

その中で、家事・育児を積極的に分担している夫の様子についても語られており、イクメン・家事ダンという言葉が登場するかなり以前から、夫婦関係において、家事分担を当たり前におこなったり、結婚時に妻の苗字を選択する夫など、ジェンダー平等意識の高い男性の存在にも注目させられます。

この他にも、港区に関連した本が、リーブラの図書室に所蔵されていますので、ご利用下さい。また、2020年に港区立男女平等参画センター設立40周年にあたり、当センターで活動されてきた方々へ昨年から聞き書きをおこなっており、6月に冊子にまとめる予定です。

2

ジェンダー平等先進国

ノルウェーの絵本

３月７日（土）開催予定だった「国際女性デー2020〈GenerationZが拓く〉リーブラ・ミーティング」で展示を予定していた、港区内にある各国大使館推薦の絵本の中で、今回はノルウェー大使館広報部にご協力をいただき、ノルウェーの絵本をご紹介いたします。

（写真提供：ノルウェー大使館広報部）

ノルウェーは、日本でも大ヒットしたディズニー映画「アナと雪の女王」の舞台として注目を集めていますが、政治分野におけるクオータ制や、父親の育児休業などは、ノルウェー発祥であり、世界の中で男女平等が進んでいる国としても知られています。（世界経済フォーラム2019年版「ジェンダーギャップ指数」世界2位）

ノルウェーでは、どのような絵本を通じて、男女平等の大切さがはぐくまれているのでしょうか。絵本を通じてジェンダー平等を学び、子どもも大人も、新たな世界へ「わたしの糸」を見つけにいきませんか。

わたしの糸　西村書店　2019年

トーリル・コーヴェ作 青木順子訳

作者はノルウェー生まれ、カナダ在住のアニメーション監督、イラストレーター、絵本作家です。2007年に短編アニメ映画部門で米国アカデミー賞を受賞しました。本作は2018年、第17回広島国際アニメーションフェスティバル優秀賞を受賞した、音楽と映像のみで構成された作品「スレッズ（Threads）」を絵本化したものです。

糸をモチーフに人と人との温かな関わり合いが描かれています。

うちってやっぱりなんかへん？　偕成社　2017年

トーリル・コーヴェ作 青木順子訳

舞台は1960年代のノルウェーです。個性的な両親に育てられた作者本人は、子供時代に他の人と違うことに葛藤を感じていました。2014年の米国アカデミー賞にノミネートされた映像作品「モールトンと私」を絵本化しました。

主人公が自分らしくあることを前向きに捉えられるようになったターニングポイントを、カラフルで軽やかに描いています。

あかちゃんはどうやってつくられるの？　河出書房新社　2019年

アンナ・フィスケ作 さわきちはる訳

ユーモラスでオリジナリティ溢れる作風で高い評価を得ている人気イラストレーター、漫画家、作家の著者です。

日本では扱いにくいテーマを楽しく分かりやすく描き、子供たちが大人に投げかける素直な質問にまっすぐ答えてくれる作品です。

オーロラの国の子どもたち　福音館書店　2018年

イングリとエドガー・パーリン・ドーレア作 かみじょうゆみこ訳

1935年に米国で初版が発売されました。著者夫婦は米国に移り住んだ後、妻イングリの祖国ノルウェーの美しい自然と文化を子供たちへ伝承するため絵本を作り始めました。

本作では、北ヨーロッパに住むサーミの人達の暮らしを、リーセとラッセの兄妹と家族の1年を通して、色彩豊かに生き生きと描いています。

パパと怒り鬼　ひさかたチャイルド　2011年

グロー・ダーレ作、大島かおり、青木順子訳

男女平等先進国として世界のトップ水準を誇るノルウェーでも、今なお家庭内での暴力的な抑圧や恐怖が存在します。

本作では、両親の家庭内での暴力を目撃することが、子供の目にどれほど恐ろしく映るかが描かれています。2009年には原作絵本がアニメーション作品となり、ノルウェー国王も鑑賞しました。「子供たちには主人公の少年のように、誰かに話す権利がある。子供たちが自分の家の中でおびえるようなことは、決してあってはならない」とコメントしています。

ウーマン・イン・バトル　合同出版　2019年

マルタ・ブレーン作、枇谷玲子訳

19世紀以降、150年にわたり自由・平等・権利を求めて闘った女性たちの歴史を描いた、ノルウェー発コミック作品です。

本作で描かれた過去の女性運動における闘いの姿には、現代社会を生き抜くヒントが隠されています。ノンフィクション作家の著者と、力強くモダンな作風のイラストレーターイェニー・ヨルダルによる共作です。世界各国で高い評価を得ており、日本を含む22か国で翻訳されています。2018年ノルウェー文化省児童書最優秀賞を受賞。

文：ノルウェー大使館広報部

リーブラからのおすすめ図書

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

ブレイディみかこ 著
［新潮社　2019年］

イギリス在住の著者とアイルランド人の配偶者を両親とする息子は、裕福な家庭の子どもが通うカトリックの名門小学校を卒業し、地元の「元底辺中学校」に進学します。

そこで彼は、人種差別、格差社会、貧困問題、LGBTQ、いじめ等の様々な問題に遭遇します。これらに親子で真剣に向き合うことで息子は少しづつ成長していきます。入学当初、何となくブルーだった彼の気持ちは明るく前向きに変化していきます。

この本は、同様の問題に直面している現代の私達に多くの示唆を与えてくれます。自分が他人の立場に立ってみることの比喩として息子が表現した「誰かの靴を履いてみる」ということは、とても大切なことだと思います。

上記の本の中で取り上げている『タンタンタンゴはパパふたり』という絵本もぜひ合わせて読んでいただきたい可愛い絵本です。

（男女平等推進団体「コールみなと」代表・「手芸グループあじさい」代表　後藤 和子）

『AINO AALTO』

アルヴァ・アールト財団
アルヴァ・アールト博物館監修
ウッラ・キンヌネン編
小川守之訳
［ TOTO出版　2016年］

北欧の建築家アルヴァ・アールトの妻であるアイノ・アールト（1894－1949）についてその人生を読み解きながら、建築家として、インテリア・家具デザイナーとして、また写真家として、丁寧に記した著作です。

全編に書簡、図面、絵や写真がちりばめられ、図集として見ても飽きない美しさがあります。

アイノがヘルシンキ工科大生であった1917年にフィンランドはロシアからの独立を宣言、翌々年に既婚女性が知的職業に携わることが許されるなど、国としても女性としても大きな変革期を生きました。

その中でもアルヴァとは対等なパートナーであったといいます。活力に満ちたアルヴァに対し物静かで実直なアイノと言われますが、彼女の作品からは優しさや美とともに筋の通った強さを感じることもでき、新鮮です。

（芝浦工業大学建築学部教授・男女共同参画推進室室長　伊藤 洋子）

今号の表紙

作品：「ハッピーパピヨン」
制作：男女平等学習団体 「Flower Room（フラワールーム）」

フラワールームは、生花やプリザーブドフラワーなどを楽しくアレンジするサークルです。2020年2月で12年目を迎えました。メンバーは現在25名程度です。自由参加制なので、毎週・隔週・月1など様々です。経験の違いがあっても自分のペースで無理なく作品作りをすることができますので、お花に癒されたとても楽しい時間を過ごしています。同じ花材でも個性が現れ、違う仕上がりになるところに新しい発見もあります。最初はただお花が好きで参加していた専業主婦の方が、今では花のプロとして仕事をするようになった方も複数いらっしゃいます。昨年11月のパープルリボン運動の時には、リーブラに紫色のプリザーブドフラワーの提供という形で参加させていただきました。

活動日は毎週木曜日の午前・午後で、第2・第4木曜日は夕方からのクラスもあり、仕事帰りの方も参加していただけます。お問い合わせは080-9344-3520（澤田）まで。

2020年度

お知らせ

リーブラ主催講座のテーマのご紹介

港区立男女平等参画センターは、
「全ての人が性別等にとらわれず、自分らしく豊かに生きることができる社会」
の実現に向けて、様々な切り口で講座を開催しています。

仕事と家庭の両立支援
・ワーク・ライフ・バランス
・男性のための育児、介護講座
・保活講座
・地域参画

社会問題
・性暴力・DV予防啓発
・被害者支援
・職場外のハラスメント防止
・SDGs
・防災
・メディアリテラシー

女性のエンパワーメント
・女性の起業・再就職応援
・女性の心身の健康
・シングルマザー支援
・リプロダクティブ・
ヘルス／ライツ

ダイバーシティ＆インクルージョン
・多様な性（LGBTなど）の
理解促進
・人権尊重推進

企業の取組支援
・ワーク・ライフ・バランス
・労働法最新情報、女性活躍推進
・職場に求められるLGBT対応
・ハラスメント防止

その他
・結婚・離婚について
・シニア生活の充実
・シングルファザー支援

ジェンダー視点で考える講座（新設）
・政治・経済とジェンダー
・文化とジェンダー（芸術、文学、
映画、ファッション）
・スポーツとジェンダー

若者向け連続講座（新設）
・デートDV、リベンジポルノ予防啓発
・リーブラ・ユース部
（ジェンダー学習ゼミナール）

シアターリーブラ
映画を通じて男女平等参画への
理解を深める（年6回）

絵本の森・みんなであそぼう！

リーブラ2階の保育室では、毎月、最終月曜日の午前10時から正午まで、赤ちゃんや子どもが喜ぶ手遊び歌の紹介や絵本のおはなし会をしています。（「絵本の森」は奇数月、「みんなであそぼう」は偶数月）経験豊富な保育士と一緒に楽しみましょう。おはなし会の合間に、子ども・子育てに関する疑問や質問にヒントがもらえる「プチ子育て質問会」もおこないます。

対象は0歳児～未就学のお子様とその保護者。参加費無料。入退室自由。申し込みは不要です。

港区立男女平等参画センター リーブラ
〒105-0023 港区芝浦1-16-1 みなとパーク芝浦
Tel: 03-3456-4149　Fax: 03-3456-1254
HP: https://www.minatolibra.jp/

@libraminato

アクセス
- JR「田町駅」東口（芝浦口） 徒歩5分
- 地下鉄浅草線・三田線「三田駅」A6出口 徒歩6分
- ちいばす ◆芝ルート・芝浦港南ルート（品川駅港南口行）「みなとパーク芝浦」徒歩0分
  ◆芝浦港南ルート（田町駅東口行）「芝浦一丁目」徒歩4分
- 都営バス（田92・99）「田町駅東口」徒歩6分

港区男女平等参画情報誌「OASIS オアシス」64号 2020年3月発行
発行：港区立男女平等参画センター指定管理者　株式会社明日葉